

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350325

研究課題名(和文) 教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職eポートフォリオの活用

研究課題名(英文) The Effects of Using Professional Teaching ePortfolio to Strengthen Career Orientation toward Teaching Professions and to Establish the Image of the Ideal Teacher

研究代表者

谷塚 光典 (YATSUKA, Mitsunori)

信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：30323231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自己評価機能と学生間の相互コメント機能を有する教職eポートフォリオ・システムを開発し、教職eポートフォリオ活用の効果を明らかにした。教育実習生は、教職eポートフォリオを活用して自己評価することを通して、教育実習を客観的に振り返ることができることを感じたり、自己課題を明確にしたりしていた。また、教育実習生間の相互コメントを通して、教育実習を改めて振り返り、教育実習生間で相互コメントすることの意義を実感していることがわかった。そして、教職eポートフォリオの効果について尋ねたところ、自分の受けた教育の振り返り、目指すべき教師像の明確化、自らの資質・力量の現状理解等に効果があった。

研究成果の概要(英文)：We developed a professional teaching ePortfolio which allows student teachers to conduct the self-assessment and peer review, and evaluated its effect. The results showed the following: (1) Using an ePortfolio for self-assessment allowed student teachers to recognize that they were able to examine their student teaching objectively and to identify their own challenges. (2) Peer review among student teachers helped them to look back on their student teaching and realize the significance of evaluating each other. (3) The ePortfolio effectively helped them to think back to the education they have received, clarify their idea of what a desirable teacher is, and understand their current competencies.

研究分野：教育学

キーワード：教師教育 教員養成 教育実習 臨床経験科目 教職 リフレクション 省察 履修カルテ

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

教員養成初期段階から「学び続ける教師」であり続けるために

中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(2012年8月28日)では、教員が教職生活全体にわたって学びを継続する意欲を持ち続ける仕組みの構築を求めている。

「学び続ける教師」であるためには、学び続けた先にある目標、すなわち「自分が目指す教師像」を明確にしておく必要がある。大学におけるキャリア教育では、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(2011年1月31日)で、大学初年次から学生に学生生活と卒業後の自分を考えさせて大学で学ぶことの目的意識を持たせることが重要としている。教職志望学生は実際に、教員養成初期段階から明確な課題意識や「目指す教師像」を持っており、教職キャリア志向向上と目指す教員像構築を一体的に捉えて教職指導に位置付ける必要がある。

経験幅の拡大による教師の“即興性”の獲得

教師の専門的発達を特徴づける1つの要素に、教師の“即興性”がある。即興的・創造的な教師の行為は、それまでに蓄積された経験に裏打ちされているので、教員養成初期段階から経験幅を拡大して、省察的实践を繰り返しつつ教師の専門性を高めていく必要がある。

教職志望学生の経験は主として、(a)大学キャンパスにおける講義・演習、(b)附属学校園をはじめとする学校現場での臨床経験、(c)青少年教育施設や放課後子ども教室のような学校外教育施設での臨床経験、(d)塾講師や家庭教師のような教育産業のアルバイト経験等がある。1990年代以降、フレンドシップ活動を中心に体験的カリキュラムが多く導入されてきたが、教師に必要なコンピテンシーはどのような経験から生まれるのか、大学はどのような経験の場を提供し学生は自主的にどのような経験の場を求めればいいのかを、教員養成教育の質保証の観点からは検討されてきてはいない。カリキュラム・マップに位置付けられる上記(a)及び(b)と位置付けられない(c)及び(d)の両方による経験幅の拡大と教師としての成長との関係を検討することが、教員養成カリキュラム改革に繋がっていく。

教職eポートフォリオの活用による教員養成教育の実質化

大学教育の実質化と2013年度からの「教職実践演習」本格実施を受けて、各大学(特に教員養成系大学・学部)では、教職eポートフォリオの開発・導入が一気に進んだ。しかしながら、教職eポートフォリオを活用した教職指導の方法についてはまだ試行段階

であり、教育学部教員による指導体制も構築されつつある状況である。信州大学教育学部においても、目指す教師像の構築と自己評価・相互評価を核とした教職eポートフォリオを開発し運用しているが、教職eポートフォリオを活用した教職指導の方法の確立や学部教員による指導体制の構築は試行段階であり、急務である。

(2) 研究代表者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯

研究代表者はこれまで、教職ポートフォリオの開発と活用に関する研究を行ってきた。科研費・若手研究(B)「ティーチング・ポートフォリオを用いた省察の深化による教育実習生の成長の質的分析」(課題番号22700810, 2010~2012年度)では、学生の教職ポートフォリオの記述を質的分析し、教員養成初期段階の学生が有する教師像の特質を描き出した。また、科研費・若手研究(B)「スタンダードとエビデンスに基づくティーチング・ポートフォリオ・システムの開発」(課題番号19700631, 2007~2009年度)では、学生は教員養成初期段階から明確な課題意識を持ちながら積極的に臨床経験科目を履修していることがわかった。学生は教員養成初期段階から明確な課題意識や教師像を有していることが明らかになったことが、本研究で教員養成初期段階に着目する契機となった。

また、科研費・若手研究(B)「教職志望学生のリフレクションを促すティーチング・ポートフォリオ・システムの開発」(課題番号16700557, 2004~2006年度)では、教職eポートフォリオの活用が経験の蓄積に有効であることが明らかになった。教職生活を通じての有効性が明らかになったので、本研究では教員養成初期段階から積極的に導入していくための活用方策を検討することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、教職を目指して教員養成課程に入学した教員養成初期段階の学生が教職キャリア志向を向上しつつ自分が目指す教員像を構築できるように、経験を蓄積し省察を深化するための教職eポートフォリオの活用方策を明らかにすることである。そこで本研究では、具体的に次の各研究課題に取り組むこととする。

(1) 教職キャリア志向向上にはどのような経験の蓄積と省察の深化が効果的か。

教師を目指して(または目指さずに)教育学部に入学した学生を、大学での学修や学校内外での臨床経験へ動機づけて教職キャリア志向を向上させる初年次カリキュラムの効果を検証する。

(2) 目指す教師像構築にはどのような経験の蓄積と省察の深化が効果的か。

大学入学前までの印象で抱いている固定的な教師像から自分が目指す教師像の構築への転換を促すための、大学での学修と学校内外での臨床経験、それらを架橋す

る省察のあり方を実証する。

- (3) 経験を蓄積し省察を深化するには教職 e ポートフォリオをどのように活用すると効果的か。

教職キャリア志向を向上し目指す教員像を構築した教員養成初期段階の学生が作成する教職 e ポートフォリオの内容構成や評価観点と、それを用いた学部教員による指導体制を提案する。

3. 研究の方法

- (1) 教師教育及び e ポートフォリオに関する文献及び情報の収集と分析

国内外の教師教育・キャリア教育及び e ポートフォリオに関する文献を収集し、e ポートフォリオの活用事例の分析から、教職 e ポートフォリオを導入・活用する際の課題と解決策を抽出する。

- (2) 質的分析ソフトの活用法に関する情報の収集

教職 e ポートフォリオの記述分析に際しては、質的分析ソフトを活用する。各社から発売されたりフリーソフトウェアとして公開されている質的分析ソフトを入手すること合わせて、それらの分析ツールを利用した研究事例を収集し、教職 e ポートフォリオの記述分析に適するツールを検討する。

- (3) 教職 e ポートフォリオの開発・運用と機能強化

教員養成系学部に入學してから卒業するまで利用可能な教職 e ポートフォリオを開発し運用する。合わせて、利用者(学生)の要望を聞いて、機能強化を図る。

- (4) 教職 e ポートフォリオ活用の効果の検証

教職 e ポートフォリオ活用の効果、特に、自己評価と相互コメントの効果を明らかにするために、学生を対象にアンケート調査を行う。

- (5) 関連学会における情報収集と研究成果発表による意見交換

本研究課題に関連して、日本教育工学会全国大会、日本教育工学会研究会、教育システム情報学会研究会、日本教育メディア学会年次大会、日本科学教育学会年会、日本教育大学協会研究集会等に参加し、教育工学・教師教育研究者との交流を通して情報収集を進めることと合わせて、これまでの成果を発表して意見交換する。

4. 研究成果

- (1) 教師教育及び e ポートフォリオに関する文献及び情報の収集と分析

国内外の教師教育及び e ポートフォリオに関する文献及び情報を収集した。その結果、「教職実践演習」の導入に伴って、教職志望学生の学びの履歴を蓄積して省察を促すために教職 e ポートフォリオが多く大学の活用されている一方で、e ポー

トフォリオを実際に開発し運用している大学は限られていることがわかった。

- (2) 質的分析ソフトの活用法に関する情報の収集

教職 e ポートフォリオの記述内容分析に用いる質的分析ソフトの活用法に関する情報収集を行った。従来から所有していた SPSS Text Analytics for Surveys (IBM) と Text Mining Studio (数理システム) 等に加えて、NVivo (QSR International) を入手し、それらを用いた文献を収集した。

- (3) 教職 e ポートフォリオの開発・運用

信州大学教育学部において開発した教職 e ポートフォリオの運用を行った。「教職実践演習」を履修する 4 年次生が、1 年次から蓄積してきた教職 e ポートフォリオを活用して、自己の学びの履歴をふり返ることができる体制を完成させた。そして、教職 e ポートフォリオを用いた教職志望学生(特に 1 年次生と 3 年次生)による相互コメントの分析を試みた。その結果、3 年次生間の相互コメントには、教員養成初期段階の 1 年次生による相互コメントと同様の特徴が見受けられる一方で、相互コメント対象者が教職 e ポートフォリオに書いてある内容を参照・引用しつつコメントしていることが多いことがわかった。

- (4) 教職 e ポートフォリオの機能強化

信州大学教育学部において開発した教職 e ポートフォリオの運用及び機能強化の効果を検証した。教職 e ポートフォリオを利用している教職志望学生を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「ログイン」や「ページへのアクセス」については肯定的な回答が多かったが、「操作性」については否定的な回答が多く、システム改善の必要性があることがわかった。

- (5) 教職 e ポートフォリオ活用の効果の検証

教職 e ポートフォリオ活用の効果を明らかにするために、教育実習を終えた大学生を対象にアンケート調査を行った。その結果、教育実習生は、教職 e ポートフォリオを活用して自己評価することを通して、教育実習を客観的に振り返ることができるを感じたり、自己課題を明確にしたりしていた。また、教育実習生間の相互コメントを通して、教育実習を改めて振り返り、教育実習生間で相互コメントすることの意義を実感していることがわかった。そして、教職 e ポートフォリオの効果について尋ねたところ、自分の受けた教育の振り返り、目指すべき教師像の明確化、自らの資質・力量の現状理解等には効果がある一方で、これからの教職課程の見通しを持つことには寄与していないことが明らかになった。

- (6) 教職 e ポートフォリオ活用による相互評価の効果の検証

教職 e ポートフォリオの機能のうち、学

生による相互コメントに着目して、相互コメントの記述内容が学年の変化に伴ってどのように変化するかを明らかにした。その結果、学年の変化に伴って、記入する文量(文字数)に大きな違いはないものの、各学年で特徴的な活動等に関連した用語が多く用いられていることがわかった。

(7) 関連学会における情報収集と研究成果発表による意見交換

本研究課題に関連して、日本教育工学会全国大会、日本教育工学会研究会、教育システム情報学会研究会、日本教育メディア学会年次大会、日本科学教育学会年会、日本教育大学協会研究集会等において計 12 件の研究発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオにおける相互コメントに見る教職志望学生の成長」. 日本教育工学会研究報告集, JSET16-1, 533-538, 2016, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020778290>

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオの活用による教育実習生の自己評価および相互コメントの効果」. 日本教育工学会論文誌, 39(3), 235-248, 2015, 査読有
<http://doi.org/10.15077/jjet.39041>

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオにおける観点別自己評価に見る教職志望学生の成長」. 日本教育工学会第 31 回全国大会講演論文集, pp.357-358, 2015, 査読無

谷塚光典・安達仁美・藤井善章・森下孟 「教員養成初期段階の学生が有する授業参観の視点と事前指導の効果」. 日本科学教育学会第 39 回年会論文集 pp.382-383, 2015, 査読無

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオを用いた教育実習生間の相互コメントの効果」. 日本教育工学会研究報告集, JSET15-3, 15-20, 2015, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020566924>

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職実践演習に対応した教職 e ポートフォリオシステムの開発と評価」. 教育システム情報学会研究報告, VOL.29, No.6, 97-102, 2015, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020394119>

安達仁美・谷塚光典 「教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プロ

グラムの開発 - 教育実習生の授業研究会への参加を通して - 」, 教育実践研究(信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要), 第 15 号, 11-20, 2014, 査読無
<http://hdl.handle.net/10091/18277>

安達仁美・藤井善章・谷塚光典・市川公明・山崎智之・穂澤正仁 「教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プログラムの開発(3) - 授業参観の視点に着目して - 」. 平成 26 年度日本教育大学協会研究集会発表概要集, 54-55, 2014, 査読無

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職実践演習に対応した教職 e ポートフォリオが有する機能の比較検討」. 教育システム情報学会研究報告, VOL.28, No.5, 75-80, 2014, 査読無
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019938775>

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職 e ポートフォリオを用いた教育実習生による相互評価の分析の試み」. 日本教育工学会研究報告集, JSET13-5, 89-92, 2013, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019926028>

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職 e ポートフォリオを用いた教員養成初期段階の学生による相互評価の分析の試み」. 日本教育メディア学会第 20 回年次大会発表論文集 29-30, 2013, 査読無

谷塚光典・安達仁美・岩田靖・平野吉直・結城匡啓 「教職ポートフォリオに対する学部教員による指導者コメントの分析の試み」. 平成 25 年度日本教育大学協会研究集会発表概要集, 52-53, 2013, 査読無

谷塚光典 「信州大学における e ポートフォリオの運用と工夫 - 自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して - 」. SYNAPSE 2013 年 7 月号, 12-15, 2013, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019863709>

谷塚光典・東原義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオを活用した教員養成初期段階の「目指す教師像」の構築」. 教育システム情報学会研究報告, VOL.28, No.2, 61-64, 2013, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019754373>

谷塚光典・東原義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオにおける相互評価機能の実装」. 日本教育工学会研究報告集, JSET13-2, pp.23-28, 2013, 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/10031187652>

[学会発表](計12件)

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオを用いた教育実習生間の相互コメントの効果」. 日本教育工学会研究会「ICT を活用した学習支援環境・基盤」, 2016 年 3 月 5 日, 香川大学(香川県高松市)

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオにおける観点別自己評価に見る教職志望学生の成長」. 日本教育工学会第 31 回全国大会, 2015 年 9 月 21~23 日(発表は 21 日), 電気通信大学(東京都調布市)

谷塚光典・安達仁美・藤井善章・森下孟 「教員養成初期段階の学生が有する授業参観の視点と事前指導の効果」. 日本科学教育学会第 39 回年会, 2015 年 8 月 21~23 日(発表は 23 日), 山形大学小白川キャンパス(山形県山形市)

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオを用いた教育実習生間の相互コメントの効果」. 日本教育工学会研究会「教師教育・教育の情報化」, 2015 年 7 月 4 日, 北星学園大学(北海道札幌市厚別区)

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 「教職実践演習に対応した教職 e ポートフォリオシステムの開発と評価」. 教育システム情報学会 2014 年度第 6 回研究会「新たなネット時代のソーシャルメディアリテラシーと情報倫理」, 2015 年 3 月 21 日, 香川大学幸町キャンパス(香川県高松市)

安達仁美・藤井善章・谷塚光典・市川公明・山崎智之・穠澤正仁 「教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プログラムの開発(3) - 授業参観の視点に着目して - 」(第 1 分科会「教員養成カリキュラムの改革」). 平成 26 年度日本教育大学協会研究集会, 2014 年 10 月 18 日, 仙台国際センター(宮城県仙台市青葉区)

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職実践演習に対応した教職 e ポートフォリオが有する機能の比較検討」. 教育システム情報学会 2013 年度第 5 回研究会「スマートデバイスによるこれからの教育・学習環境」, 2014 年 1 月 11 日, 高知工科大学(高知県香美市)

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職 e ポートフォリオを用いた教育実習生による相互評価の分析の試み」. 日本教育工学会研究会「エンタテインメントを活用した教育」, 2013 年 12 月 14 日 徳島大学常三島キャンパス(徳島県徳島市)

谷塚光典・東原義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや 「教職 e ポートフォリオを用いた教員養成初期段階の学生による相互評価の分析の試み」. 日本教育メディア学会第 20 回年次大会, 2013 年 10 月 12 日, 和歌山大学(和歌山県和歌山市)

谷塚光典・安達仁美・岩田靖・平野吉直・結城匡啓 「教職 e ポートフォリオに対する学部教員による指導者コメントの分析の試み」(第 1 分科会 A「教員養成カリキュラムの改革」). 平成 25 年度日本教育大学協会研究集会, 2013 年 10 月 5 日, 札幌全日空ホテル(北海道札幌市中央区)

谷塚光典・東原義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオを活用した教員養成初期段階の「目指す教師像」の構築」. 教育システム情報学会 2013 年度第 2 回研究会「ICT を活用した学習支援と教育の質保証」, 2013 年 7 月 14 日, 千歳科学技術大学(北海道千歳市)

谷塚光典・東原義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 「教職 e ポートフォリオにおける相互評価機能の実装」. 日本教育工学会研究会「教育研修の設計と評価」, 2013 年 5 月 18 日, 長崎大学文教キャンパス(長崎県長崎市)

[図書](計1件)

大学 e ラーニング協議会・日本リメディアル教育学会監修, 岡本敏雄・穂屋下茂・寺田貢・谷塚光典ほか計 64 名, ナカニシヤ出版, 『大学における e ラーニング活用実践集 - 大学に於ける学習支援への挑戦 2 - 』, 2016, 312p., pp.83-86 (e ラーニングシステムと e ポートフォリオを活用した教職教育支援: 信州大学の事例)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷塚 光典 (YATSUKA, Mitsunori)
信州大学・学術研究院教育学系・准教授
研究者番号: 30323231